

働く若者のくらしとお金に関する調査2017

～既婚男性や子持ち男性の5人に1人は「月40時間超残業」、家事労働の負担は妻に～

特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会(略称:日本FP協会、理事長:白根壽晴)は、2017年9月1日～9月10日の10日間、全国の20歳～34歳の就業者を対象に「働く若者のくらしとお金に関する調査」をインターネットリサーチで実施し、1,200名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

■調査結果の概要

【働く若者のくらしと仕事】 ……2～13ページ

- ◆働く若者の3割半が「非正規雇用」、8割弱は「独身」で、5割半は「親元ぐらし」
- ◆「今は苦しくても努力をすれば将来安定」が信じられない時代を生きる若者世代「年々昇給する見込み・実感がない」「成果を出しても昇給しない」ともに6割半
- ◆若者世代の望む働き方改革は「ワーク・ライフ・バランスの実現」と「成果に見合った給料」「定期的な昇給」
- ◆既婚男性や子持ち男性の5人に1人は「月40時間超残業」、家事労働の負担は妻に
- ◆平日・帰宅前の「おひとりさま外食」は年平均13回、「デート」や「合コン」、「飲み会」の頻度は?
- ◆若者がついていきたい上司のタイプは「コーチタイプ」に「仕事人タイプ」、「叱り上手より褒め上手」
- ◆きっちり仕事をこなす“仕事人” 男性の理想像は「イチローさん」、女性の理想像は「天海祐希さん」

【働く若者のライフプラン】 ……14～15ページ

- ◆若者がイメージする“幸せな生活”「好きな仕事で安定収入」、「仕事の成功よりもプライベートの交流充実」
- ◆働く若者の3人に1人は「結婚はしたいが、難しいかも」と実感、その理由は「収入額への不満」から?
- ◆将来叶えたい夢や目標「出産・子育て」56%、「マイホーム購入」63%、「ゆとりの老後」93%、「親孝行」88%
- ◆「結婚前に沢山恋愛したい」はもう時代遅れ「恋愛せずに結婚したい」「逃げ恥」タイプな価値観も?

【働く若者のくらしとお金、マネープラン】 ……16～24ページ

- ◆働く若者の預貯金額のリアル 独身は80万円、夫婦2人は200万円、子育て世代は100万円
- ◆資産運用実践者の拠出額 確定拠出年金の拠出額は年平均14万円、投資の元手は年平均99万円拠出
- ◆所得控除を加味すればよい運用? 保険料控除を知っている人の3割強が「個人年金保険」に加入
- ◆貯蓄の秘訣? 預貯金が多い人は「貯蓄の目標設定」や「カード明細チェック」、「ネット銀行の活用」を実践
- ◆いずれ割り勘も電子化? 5人に1人が「割り勘・送金アプリを利用したい」
- ◆お金の管理はITやFPに頼りたい? 「FPに今後相談したい」は2割半、
家計簿を自動作成する「PFMサービス」の利用意向は2割弱、AIが資産配分を提案する「ロボ・アド」は2割
- ◆子育て期の男性は2割半が家計簿を自動作成する「PFMサービス」の利用経験者

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「日本FP協会 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先

担当	日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 広報部広報課 金田・田和	TEL 03-5403-9739	FAX 03-5403-9795	E-mail info@jafp.or.jp
----	-------------------------------------	---------------------	---------------------	---------------------------

特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

<本部事務所> 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス5F TEL 03-5403-9700(代) FAX 03-5403-9701
<大阪事務所> 〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜1-4-19 マニユライフプレイズ堂島5F TEL 06-6344-8063 FAX 06-6344-8065

アンケート調査結果

【働く若者のくらしと仕事】

- ◆働く若者の3割半が「非正規雇用」、8割弱は「独身」で、5割半は「親元暮らし」
- ◆首都圏は結婚も子育てもしづらい？一都三県居住の働く若者の8割強は「独身」
- ◆若者世代だってライフステージが進展すると家を買う 子育てする若者の4割がマイホーム保有

はじめに、働く若者のくらしと仕事の実態について、確認を行いました。

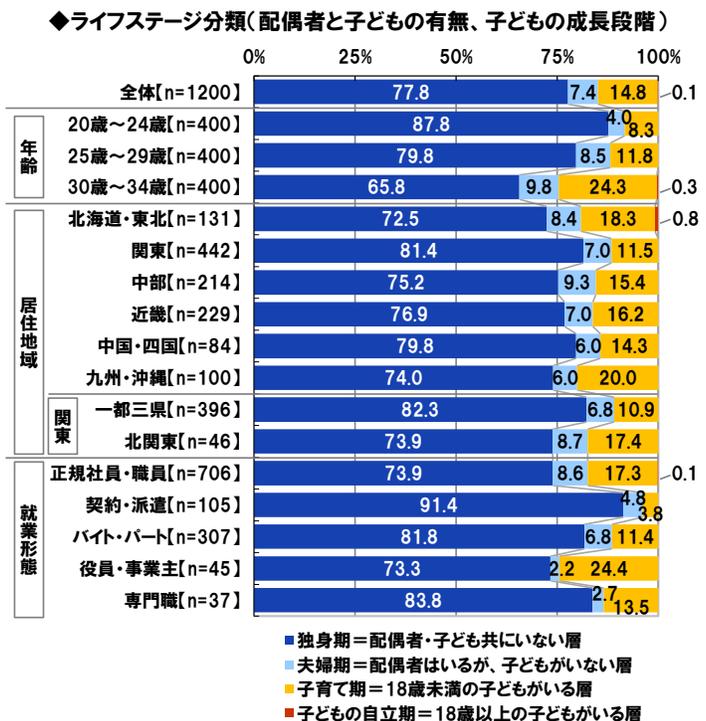
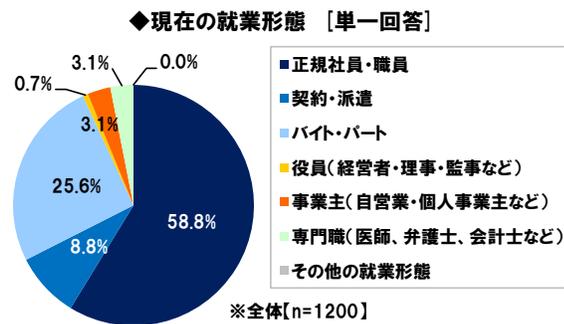
全国の20歳～34歳の就業者1,200名(全回答者)に、現在の就業形態を聞いたところ、「正規社員・職員」は58.8%、「契約・派遣」は8.8%、「バイト・パート」は25.6%となりました。働く若者の3割半(34.4%)は、契約・派遣やアルバイトなどの、いわゆる非正規雇用で働いているようです。そのほか、「役員(経営者・理事・監事など)」0.7%や「事業主(自営業・個人事業主など)」3.1%といった、“雇われない働き方”は1割以下となっています。

次に、配偶者と子どもの有無、子どもの成長段階から分類した“ライフステージ”を確認すると、全回答者(1,200名)のうち、「独身期」(=配偶者・子ども共にいない層)は77.8%、「夫婦期」(=配偶者はいるが、子どもがいない層)は7.4%、「子育て期」(=18歳未満の子どもがいる層)は14.8%、「子どもの自立期」(=18歳以上の子どもがいる層)は0.1%となりました。

年齢別にみると、「独身期」の割合は20歳～24歳87.8%→25歳～29歳79.8%→30歳～34歳65.8%と、年齢が上がるにつれて徐々に少なくなるものの、30代前半でも6割半が独身であることがわかりました。

また、居住地域別にみると、関東では「独身期」の割合が81.4%とそのほかの地域よりも高く、一都三県では82.3%と特に高くなりました。首都圏で働く若者は結婚や子育てがしづらい状況におかれているのではないのでしょうか。

さらに、就業形態別にみると、契約・派遣では「独身期」の割合が91.4%とそのほかの就業形態に比べて高くなりました。



続いて、親との同居状況、マイホーム保有の有無から分類した“住まいのステージ”を確認すると、全回答者(1,200名)のうち、「親元ぐらし」(＝実家または配偶者の実家で親とくらしている)は54.3%、「借りぐらし」(＝親元を離れてくらしているが、住まいはマイホームではない)は33.2%となりました。そのほか、「マイホームぐらし(独立)」(＝親元を離れ、マイホームでくらしている)は10.4%、「マイホームぐらし(親同居)」(＝マイホームに親をよび、一緒にくらしている)は2.1%となり、合計でマイホーム保有率は12.5%となっています。

ライフステージ分類別にみると、独身期のマイホーム保有率は6.2%、夫婦期は24.7%、子育て期は39.6%となりました。20代～30代前半の若者世代でも、子育て期になると4割がマイホームを取得しているようです。

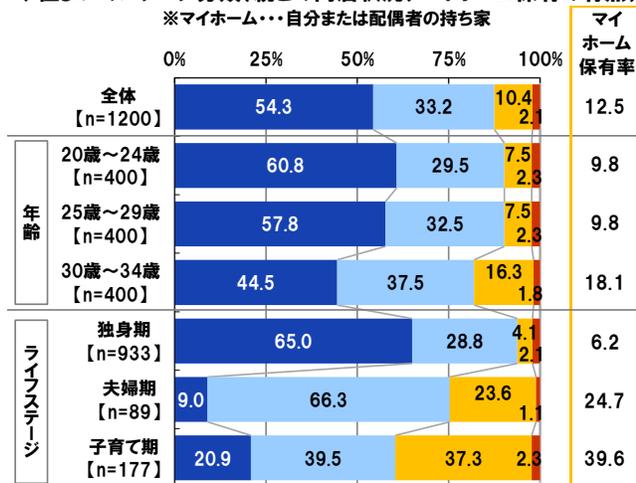
次に、全回答者のうちの被雇用者(1,118名)に、働き方はフルタイム勤務(※1)か短時間勤務(※2)か聞いたところ、「フルタイム勤務」78.4%、「短時間勤務」21.6%となりました。

男性の「フルタイム勤務」の割合(以下、フルタイム率)をライフステージ別にみると、独身期で81.7%、夫婦期で100.0%、子育て期で97.5%となりました。男性は夫婦期や子育て期でもフルタイムで働く人が多いようです。一方で、女性のフルタイム率は、独身期で75.5%、夫婦期で58.2%、子育て期で60.0%となっています。昨今では、男性の家事や子育てへの参画促進が叫ばれていますが、現状は“夫がフルタイムで仕事に注力し、妻が短時間勤務で夫を支える”状況のようです。

※1.「週に40時間程度の契約/例:1日8時間×週5日など」と説明を提示して聴取

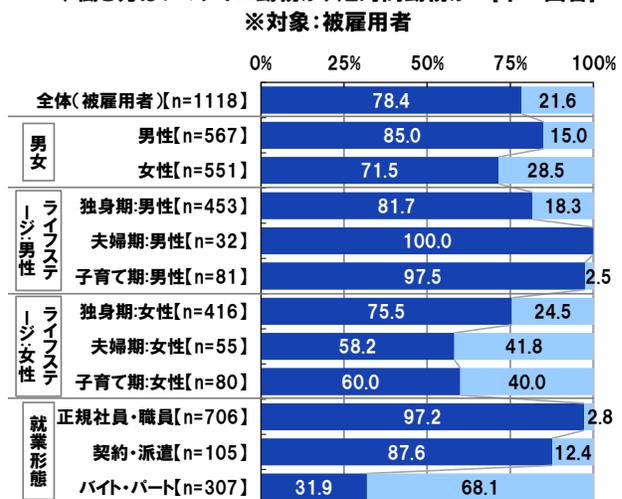
※2.「フルタイム勤務よりも短い契約/例:1日6時間×週5日、1日8時間×週3日など」と説明を提示して聴取

◆住まいのステージ分類(親との同居状況、マイホーム保有の有無)



- 親元ぐらし
＝実家または配偶者の実家で親とくらしている
- 借りぐらし
＝親元を離れてくらしているが、住まいはマイホームではない
- マイホームぐらし(独立)
＝親元を離れ、マイホームでくらしている
- マイホームぐらし(親同居)
＝マイホームに親をよび、一緒にくらしている

◆働き方はフルタイム勤務か、短時間勤務か [単一回答]



- フルタイム勤務
(週に40時間程度の契約/例:1日8時間×週5日など)
- 短時間勤務
(フルタイム勤務よりも短い契約 / 例:1日6時間×週5日、1日8時間×週3日など)

◆「今の暮らしに満足」は5割半も、「将来の暮らしが不安」は7割 仕事は「収入額が不満」が6割半
◆「収入・雇用の安定を実感」非正規雇用者は2割半、正規雇用者の1/2の水準

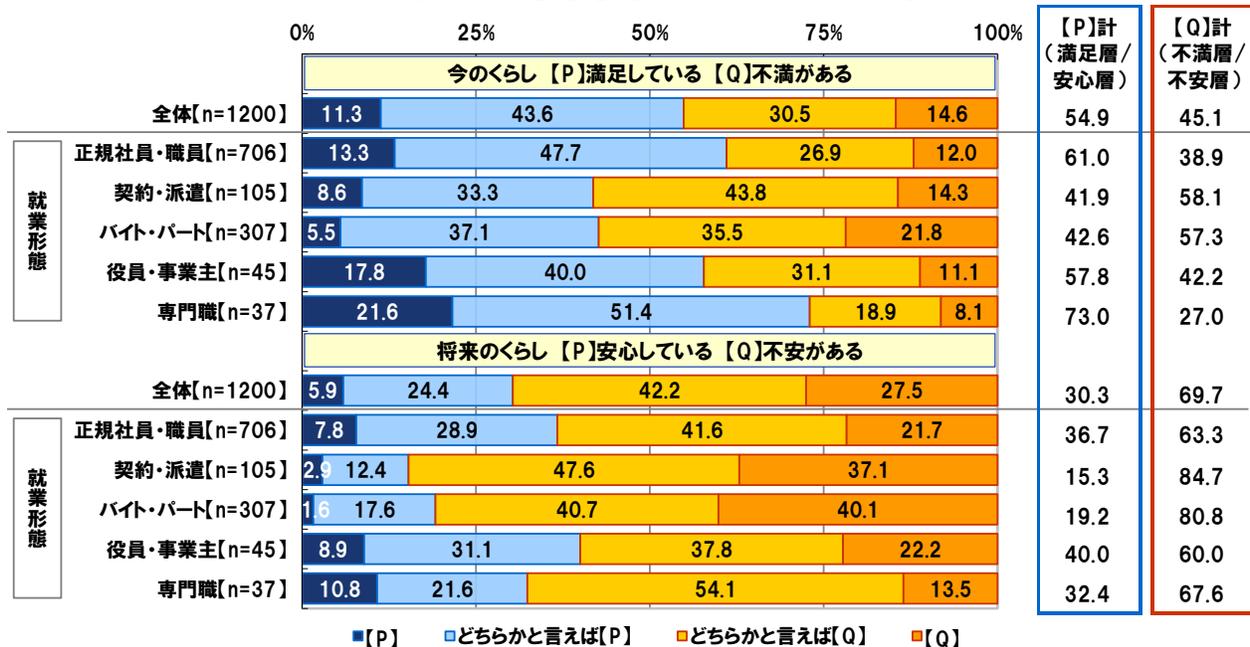
働く若者の暮らしと仕事の実態をみてきましたが、くらしや仕事について、どのような気持ちを抱いているのでしょうか。働く若者のホンネを探りました。

全回答者(1,200名)に、「今の暮らし」に満足しているか、不満があるか聞いたところ、満足層(「満足している」+「どちらかと言えば満足している」の合計、以下同様)が54.9%、不満層(「不満がある」+「どちらかと言えば不満がある」の合計、以下同様)が45.1%となりました。

次に、「将来の暮らし」に安心しているか、不安があるか聞いたところ、安心層(「安心している」+「どちらかと言えば安心している」の合計、以下同様)が30.3%、不安層(「不安がある」+「どちらかと言えば不安がある」の合計、以下同様)が69.7%となりました。働く若者世代には、今の暮らしには満足しているものの、将来の暮らしが不安な人が多いようです。

就業形態別に満足層・安心層の割合をみると、正規社員・職員では、「今の暮らし」が61.0%、「将来の暮らし」が36.7%で、契約・派遣(「今の暮らし」41.9%、「将来の暮らし」15.3%、以下同順)やバイト・パート(42.6%、19.2%)に比べて高くなりました。非正規雇用で働く人は特に、今の暮らしへの不満や将来の暮らしへの不安を抱いている様子が見られました。

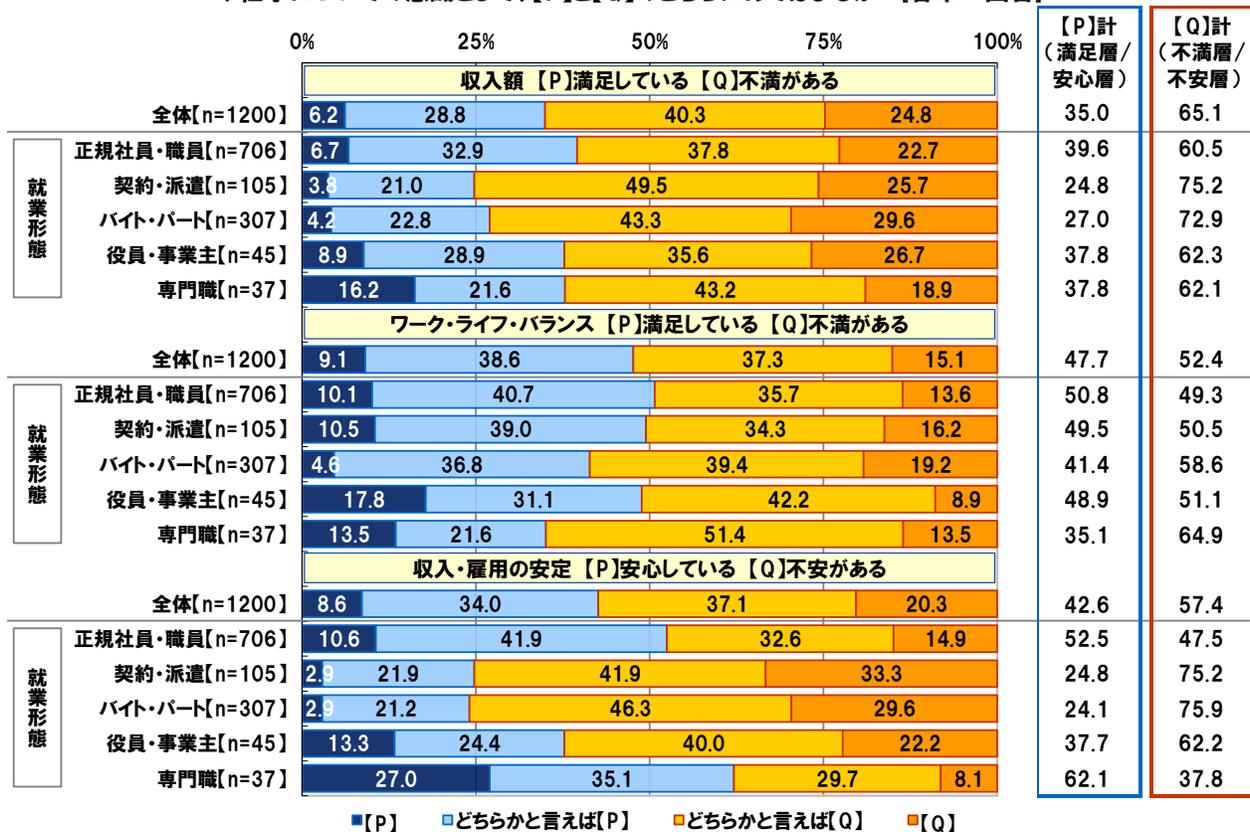
◆くらしについての意識として、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答]



また、全回答者(1,200名)に、仕事に関して、「収入額」や「ワーク・ライフ・バランス」に満足しているか、「収入・雇用の安定」に安心しているか聞いたところ、「収入額」では不満層が65.1%、「ワーク・ライフ・バランス」では不満層が52.4%、「収入・雇用の安定」では不安層が57.4%となりました。仕事に関しては不満や不安が多数派となっており、中でも特に、収入額に不満を抱いている人が多いようです。

就業形態別に満足層・安心層の割合をみると、「収入・雇用の安定」については、正規社員・職員(52.5%)と非正規雇用(契約派遣24.8%、バイト・パート24.1%)との間のギャップが大きく、非正規雇用の満足層の割合は正規社員・職員のおよそ半分となりました。こういった、収入や雇用の不安定さが将来のくらしの不安に繋がっているのではないのでしょうか。

◆仕事についての意識として、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答]

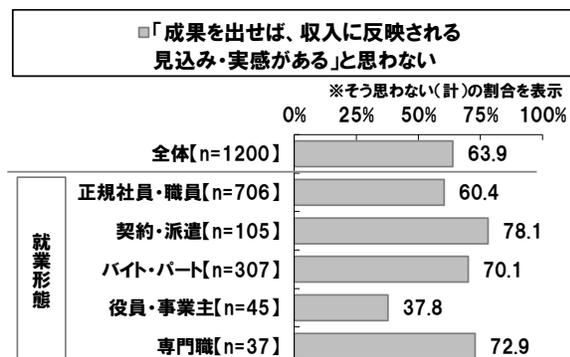
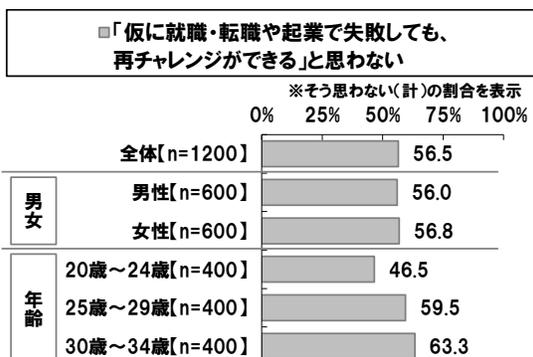
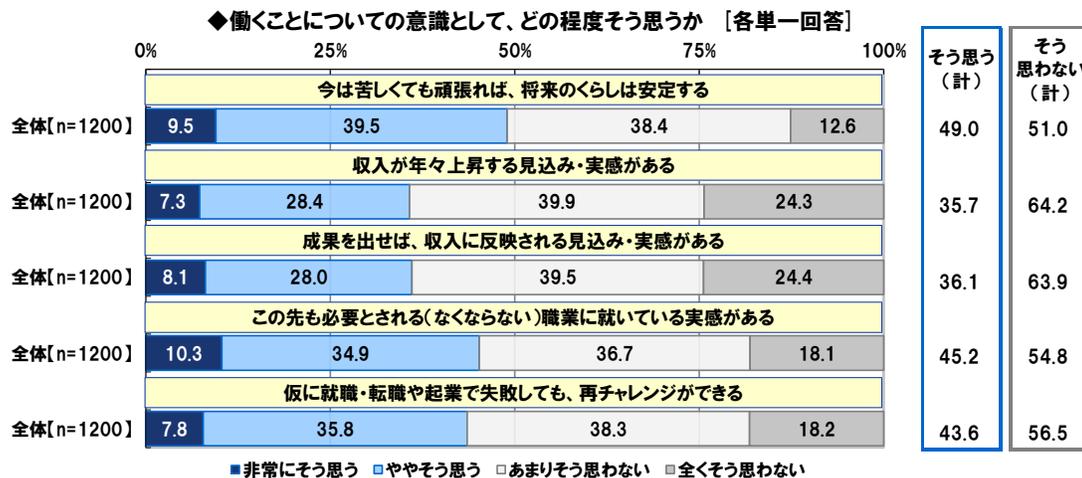


◆“今は苦しくても努力をすれば将来安定”が信じられない時代を生きる若者世代
「年々昇給する見込み・実感がない」「成果を出しても昇給しない」ともに6割半、
「今の職業はこの先なくなるかも」5割半、「失敗したら再チャレンジは難しい」5割半

続いて、全回答者(1,200名)に、働くことについての意識を聞いたところ、「今は苦しくても頑張れば、将来のくらしは安定する」では「そう思う(計)」「非常にそう思う」+「ややそう思う」の合計が49.0%、「そう思わない(計)」「全くそう思わない」+「あまりそう思わない」の合計、以下同様)が51.0%となりました。働く若者の半数が、「今は苦しくても頑張れば将来が安定する」という意識が持てないようです。また、「収入が年々上昇する見込み・実感がある」では、「そう思わない(計)」が64.2%、「成果を出せば、収入に反映される見込み・実感がある」では、「そう思わない(計)」が63.9%となりました。年次昇給に期待できないうえに、成果も収入に反映されないと感じている人が多いことがわかります。さらに、「この先も必要とされる(なくなるらない)職業に就いている実感がある」では「そう思わない(計)」が54.8%、「仮に就職・転職や起業で失敗しても、再チャレンジができる」では「そう思わない(計)」が56.5%となっています。変化が早い時代を生きる働く若者世代は、この先仕事がなくなるかもしれないし、失業したら再チャレンジすることが難しいと考える人が多数派のようです。

年齢別に、「仮に就職・転職や起業で失敗しても、再チャレンジができる」について、「そう思わない(計)」の割合をみると、20歳～24歳46.5%→25歳～29歳59.5%→30歳～34歳63.3%と、年齢が上がるほど再チャレンジが難しいと感じている人が多くなりました。

また、就業形態別に、「成果を出せば、収入に反映される見込み・実感がある」について、「そう思わない(計)」をみると、契約・派遣は78.1%、バイト・パートは70.1%となり、正規社員・職員(60.4%)よりも高くなりました。非正規雇用では特に、成果が収入に繋がる実感や見込みが持てずにいるようです。



◆若者世代の望む働き方改革は「ワーク・ライフ・バランスの実現」と「成果に見合った給料」「定期的な昇給」
◆ワーママが望む働き方改革は「産休・育休や介護休暇をもっと取得しやすく」

仕事や働くことについて、働く若者は様々な不満や不安を抱えていることがわかりましたが、労働環境にどのような変化を望んでいるのでしょうか。

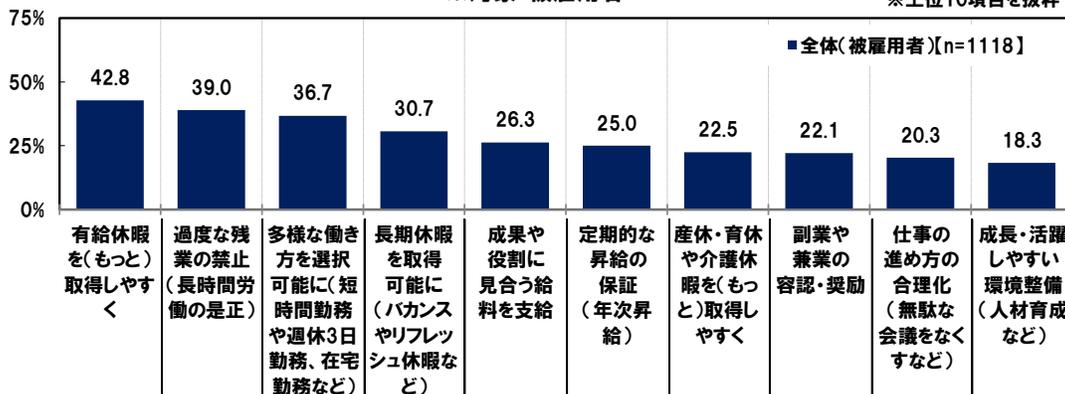
全回答者のうちの被雇用者(1,118名)に、“働き方改革”として、雇い主や日本の労働市場に望む変化・改革はなにか聞いたところ、「有給休暇を(もっと)取得しやすく」が42.8%で最も高く、次いで、「過度な残業の禁止(長時間労働の是正)」が39.0%、「多様な働き方を選択可能に(短時間勤務や週休3日勤務、在宅勤務など)」が36.7%、「長期休暇を取得可能に(バカンスやリフレッシュ休暇など)」が30.7%で続きました。ワーク・ライフ・バランスの実現に関する変化や改革を望む意見が上位となっています。以下は、「成果や役割に見合う給料を支給」26.3%や「定期的な昇給の保証(年次昇給)」25.0%と、給料に関する意見が続きます。成果に見合う給料のほか、年次昇給を望む声が多いようです。

就業形態別にみると、契約・派遣では「非正規の処遇の差の是正(同一労働同一賃金など)」が37.1%で5位にあがり、「副業や兼業の容認・奨励」が34.3%で6位にあがるなど、特徴がみられました。正規雇用労働者との間に不合理な格差を感じていて、その改善を望んでいる人が多いようです。また、副業や兼業をしやすい労働環境になって欲しい、との意見も上位となりました。

◆“働き方改革”として、雇い主や日本の労働市場に望む変化・改革 [複数回答可]

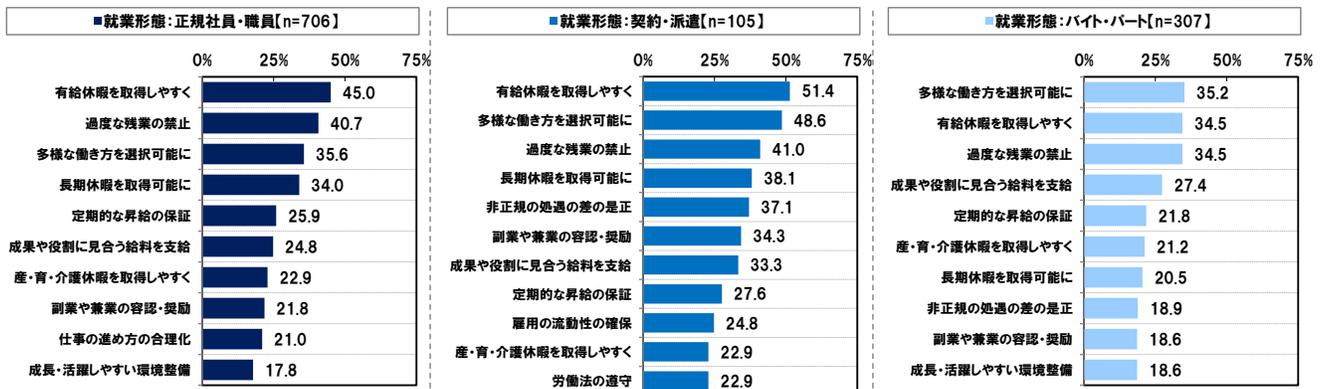
※対象:被雇用者

※上位10項目を抜粋



◆“働き方改革”として、雇い主や日本の労働市場に望む変化・改革 [複数回答可]

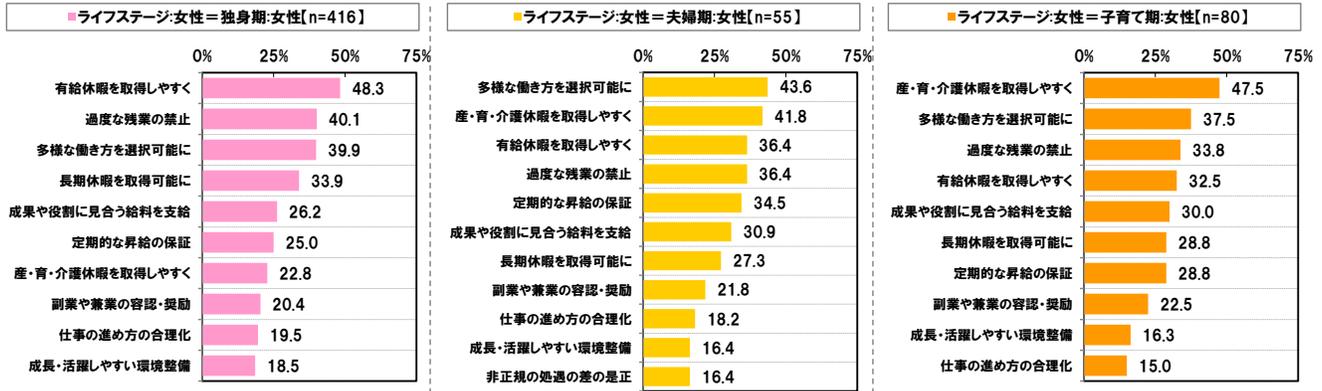
※それぞれの上位10項目を抜粋



さらに、女性の回答をライフステージ別にみると、「産休・育休や介護休暇を(もっと)取得しやすく」は夫婦期の女性では41.8%で2位に、子育て期の女性、いわゆるワーキングマザーでは47.5%で1位となりました。現状の産休や育休の取得しづらさに不満を抱えているワーキングマザーが多いようです。

◆“働き方改革”として、雇い主や日本の労働市場に望む変化・改革 [複数回答可]

※それぞれの上位10項目を抜粋



◆平均でみる働く若者の生活 残業時間は月18時間、平日の家事は1日1時間、自由時間は1日2.5時間
◆既婚男性や子育て男性の5人に1人は「月40時間超残業」、家事労働の負担は妻に

次に、“生活時間”の側面から、働く若者の実態を探りました。

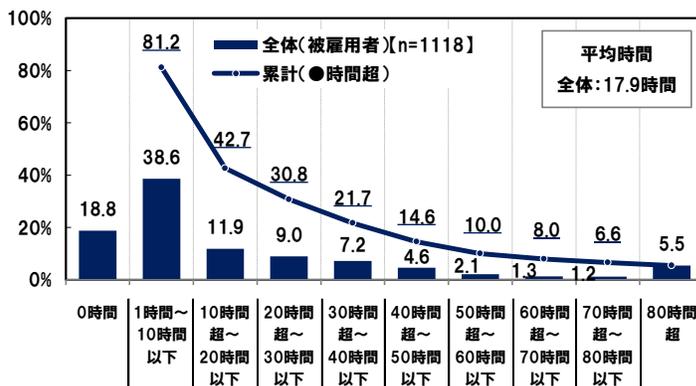
全回答者のうちの被雇用者(1,118名)に、ひと月あたりの時間外労働時間(残業や休日出勤)は何時間ぐらいになることが多いか聞いたところ、時間外労働をすることがない「0時間」は18.8%となり、「1時間～10時間以下」が38.6%で最多回答となりました。以降、累計で「10時間超」は42.7%、「20時間超」は30.8%、「40時間超」は14.6%となっています。40時間を超える時間外労働を行っている人も珍しくないようです。また、全体の平均時間は17.9時間となりました。

時間外労働が「40時間超」の割合に注目し、男女・ライフステージ別にみると、夫婦期の男性は21.9%、子育て期の男性は21.0%となり、独身期の男性(15.2%)や各ライフステージの女性に比べて高くなりました。男性は夫婦期や子育て期が“働き盛り”のタイミングと重なるためか、この時期に長時間労働を行う人が少なくないようです。

続いて、全回答者(1,200名)に、仕事がある日の家事時間は1日あたりどのくらいになることが多いか聞いたところ、「1分～30分以下」26.8%や「30分超～1時間以下」29.6%、「1時間超～2時間以下」17.6%に回答が集まり、仕事がある日の家事時間は平均60分(1時間)となりました。

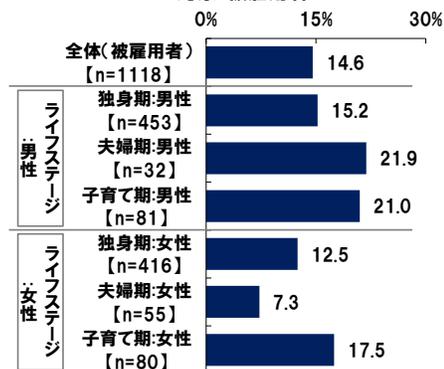
男女・ライフステージ別にみると、夫婦期の女性は平均時間が98分(1時間38分)、子育て期の女性は119分(1時間59分)となり、同ライフステージの男性(夫婦期の男性41分、子育て期の男性69分)よりも、50分～1時間程度、多くなりました。長時間労働を行う夫の分まで家事をしている妻が多いためか、夫婦期や子育て期の女性は家事労働時間が多くなる傾向がみられました。

◆ひと月あたりの時間外労働時間(残業や休日出勤)は何時間ぐらいになることが多いか [単一回答]
※対象:被雇用者

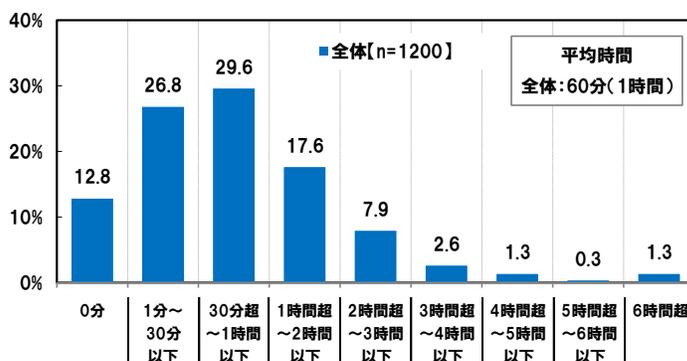


■「40時間超」の時間外労働をすることが多い割合

※対象:被雇用者

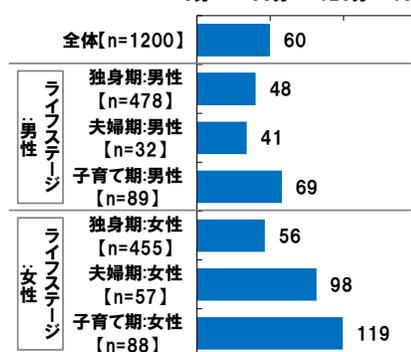


◆仕事がある日の家事時間は1日あたりどのくらいになることが多いか [単一回答]



■仕事がある日の平均家事時間

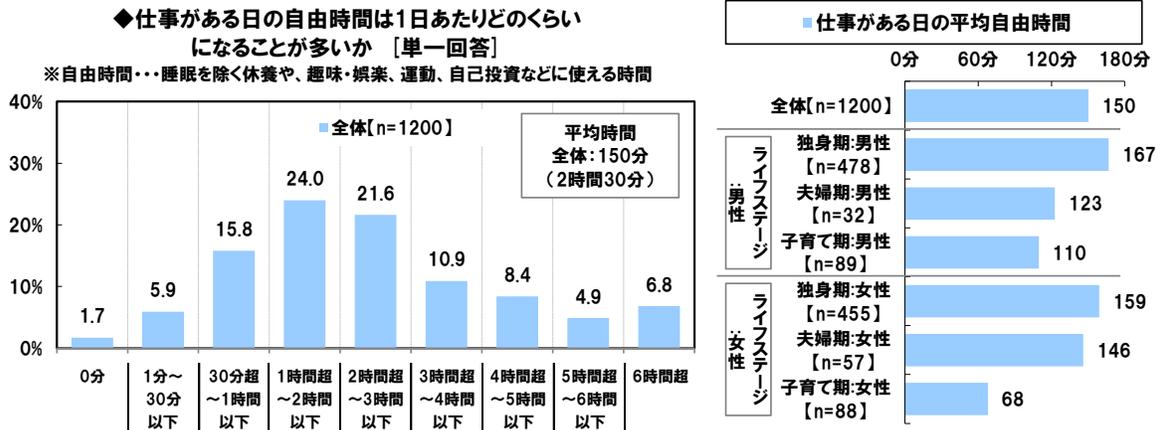
0分 60分 120分 180分



仕事や家事労働が忙しい働く若者世代は、平日にどのくらいの自由時間が確保できているのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、仕事がある日の自由時間(睡眠を除く休養や、趣味・娯楽、運動、自己投資などに使える時間)は1日あたりどのくらいになることが多いか聞いたところ、「30分超～1時間以下」15.8%や「1時間超～2時間以下」24.0%、「2時間超～3時間以下」21.6%に回答が集まり、仕事がある日の自由時間は平均150分(2時間30分)となりました。

男女・ライフステージ別にみると、子育て期の女性は平均時間が68分(1時間8分)と特に少なく、同ライフステージの男性(子育て期の男性110分)と比べても、40分程少ないことがわかりました。自分の自由時間を犠牲にしながら頑張っているワーキングマザーが多いようです。



◆終業後の楽しみ方「飲み会」よりも「趣味の用事」が高頻度

平日・帰宅前の「おひとりさま外食」は年平均 13 回、「デート」や「合コン」、「飲み会」の頻度は？

◆子どもがいない夫婦の平日デート頻度は年平均 15 回、子どもを持つと年平均 7 回に半減

◆子育てが始まるとパパは飲み会が増える？パパの平日飲み会は年平均 17 回、独身男性は年平均 10 回

それでは、働く若者は平日の自由時間をどのようにして楽しんでいるのでしょうか。

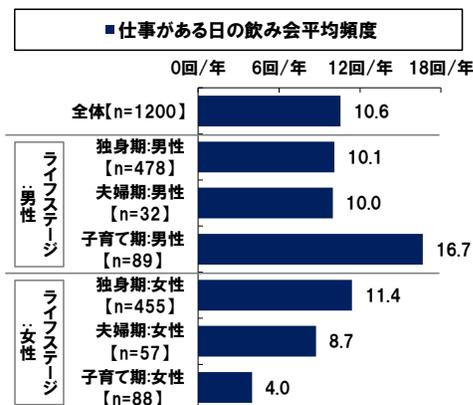
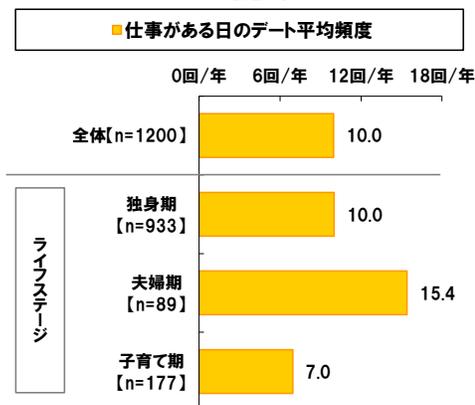
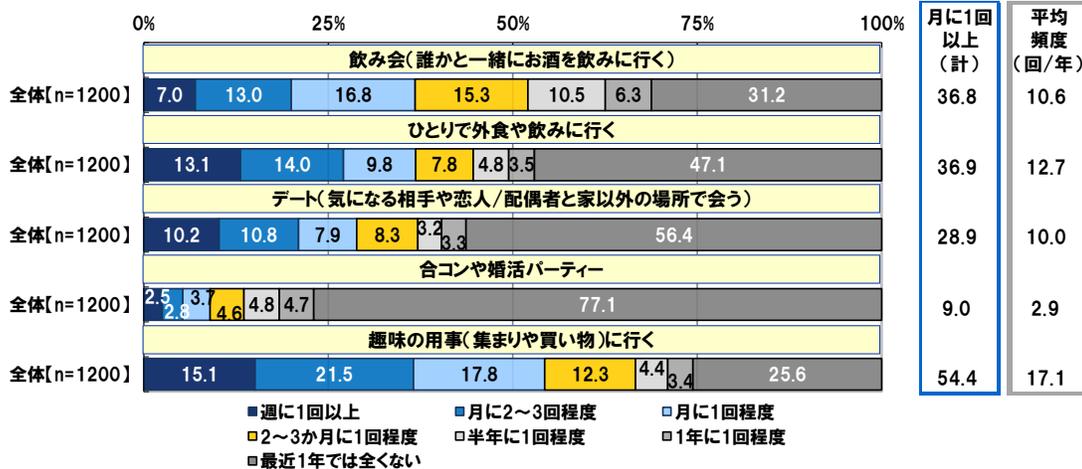
全回答者(1,200名)に、最近1年間で、仕事がある日にまっすぐ帰宅をせず、寄り道をするのはどの程度あったか、寄り道の内容別に聞いたところ、「飲み会(誰かと一緒にお酒を飲みに行く)」では、「月に1回以上(計)」「週に1回以上」+「月に2~3回程度」+「月に1回程度」の合計が36.8%、「2~3か月に1回程度」が15.3%、「半年に1回程度」が10.5%、「1年に1回程度」が6.3%、「最近1年では全くない」が31.2%となり、平均頻度は年10.6回となりました。

そのほかの寄り道について、平均頻度をみると、「ひとりで外食や飲みに行く」、いわゆる「おひとりさま」は年12.7回、「デート(気になる相手や恋人/配偶者と家以外の場所で会う)」は年10.0回、「合コンや婚活パーティー」は年2.9回、「趣味の用事(集まりや買い物)に行く」は年17.1回となりました。飲み会と同程度の頻度で、おひとりさまやデートを、飲み会よりも高頻度で趣味の用事を終業後の自由時間で楽しんでいる様子が見られました。

ライフステージ別に、仕事がある日のデート平均頻度をみると、夫婦期は年15.4回であるのに対し、子育て期は年7.0回となりました。子育てが始まると夫婦デートの回数が半減するようで、子どもの誕生前に二人きりの時間を楽しんでいる夫婦が多いのかもしれない。

また、男女・ライフステージ別に、仕事がある日の飲み会平均頻度をみると、子育て期の男性は年16.7回と、独身期の男性(年10.1回)や夫婦期の男性(年10.0回)よりも高頻度となったのに対し、子育て期の女性は年4.0回と、独身期の女性(年11.4回)や夫婦期の女性(年8.7回)よりも低頻度となり、男女で異なる特徴がみられました。

◆最近1年間で、仕事がある日にまっすぐ帰宅をせず、寄り道をするのはどの程度あったか [各単一回答]



◆仕事とプライベートはきっちり区別？上司や先輩と「休日も交流」「SNSでも交流」は1割未満
◆若者がついていきたい上司のタイプは「コーチタイプ」に「仕事人タイプ」、「叱り上手より褒め上手」

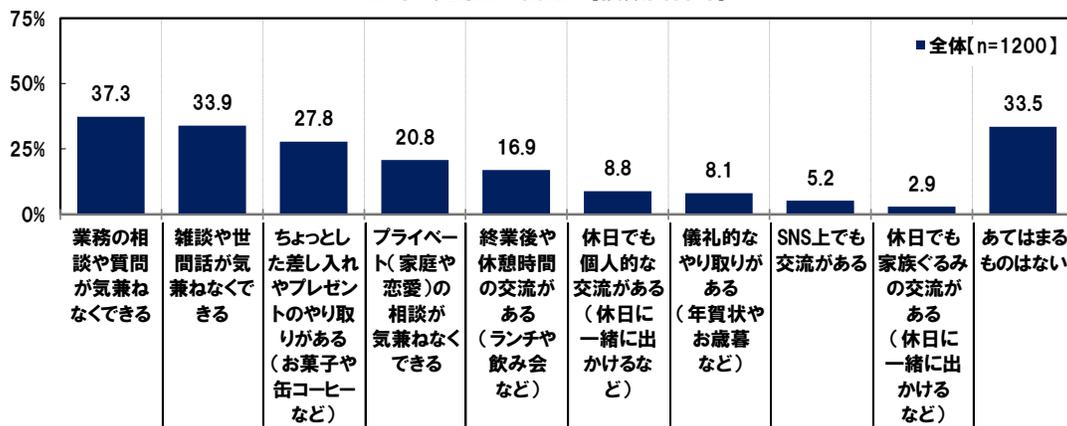
働く若者は、職場の目上の人と、どのような関係を築いているのでしょうか。

全回答者(1,200名)に対し、上司や先輩との関係について聞いたところ、「業務の相談や質問が気兼ねなくできる」は37.3%、「雑談や世間話が気兼ねなくできる」は33.9%となりました。働く若者のおよそ3人に1人は、上司や先輩と気兼ねなく業務の相談や雑談ができる関係を築いているようです。以下、「ちょっとした差し入れやプレゼントのやり取りがある(お菓子や缶コーヒーなど)」は27.8%、「プライベート(家庭や恋愛)の相談が気兼ねなくできる」は20.8%、「終業後や休憩時間の交流がある(ランチや飲み会など)」は16.9%となりました。そのほか、「休日でも個人的な交流がある(休日と一緒に出かけるなど)」(8.8%)や「SNS上でも交流がある」(5.2%)などは1割未満となっています。差し入れやプレゼントのやり取りをしたり、終業後の時間や休憩時間を共にしたりといった交流をしている人は珍しくないものの、休日の交流やSNS上の交流は行っていない人が大多数となりました。

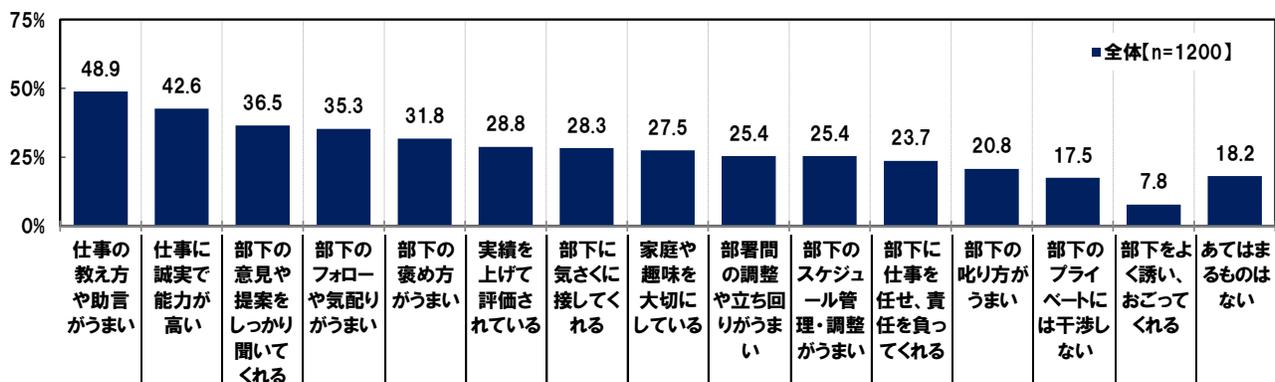
では、働く若者はどのような上司についていきたいと思うのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、「こんな人ならついていきたい」と思える上司の特徴を聞いたところ、「仕事の教え方や助言がうまい」が48.9%で最も高く、次いで「仕事に誠実で能力が高い」が42.6%、「部下の意見や提案をしっかりと聞いてくれる」が36.5%、「部下のフォローや気配りがうまい」が35.3%で続きました。教え上手な「コーチタイプ」の上司や、仕事の能力が高い「仕事人タイプ」の上司を支持する傾向があるようです。そのほかの項目をみると、「部下の叱り方がうまい」20.8%よりも「部下の褒め方がうまい」31.8%の割合が高く、「部下のプライベートには干渉しない」17.5%よりも「部下に気さくに接してくれる」28.3%の割合が高いことがわかります。叱り上手よりも褒め上手の上司、プライベートに干渉しない上司よりも気さくに接してくれる上司についていきたいと思う人が多いようです。

◆上司や先輩との関係 [複数回答可]



◆“こんな人ならついていきたい”と思える上司の特徴 [複数回答可]



- ◆きっちり仕事をこなす“仕事人” 男性の理想像は「イチローさん」、女性の理想像は「天海祐希さん」
- ◆家庭を大事にする“家庭人”と言え？ 男性の理想像は「ヒロミさん」、女性の理想像は「つるの剛士さん」
- ◆“趣味人”の理想像はダントツで「所ジョージさん」

くらしや仕事に関連して、有名人を題材とした質問を行い、働く若者の理想像を探りました。

全回答者(1,200名)に、「仕事人(仕事に誠実できっちり仕事をこなす人)」だと思ふ有名人を聞いたところ、1位は「明石家さんまさん」(54名)、2位は「天海祐希さん」(45名)、3位は「イチローさん」(37名)となりました。お笑いや演技、野球と、ジャンルは様々ですが、いずれも長く第一線で活躍されている方々が上位にランクインしました。

男女別にみると、男性回答の1位は「イチローさん」(35名)で、女性回答の1位は「天海祐希さん」(37名)となりました。

続いて、「家庭人(家庭を大事にしている人)」だと思ふ有名人を聞いたところ、1位は「つるの剛士さん」(63名)、2位は「ヒロミさん」(39名)、3位は「北斗晶さん」(32名)となりました。

男女別にみると、男性回答の1位は「ヒロミさん」(20名)となりました。ヒロミさんといえば、プロも認めるリフォーム技術を持っていることで知られています。日曜大工で家庭に貢献するような父親を、家庭人の像として抱いている男性が多いのではないのでしょうか。

対して、女性回答の1位は「つるの剛士さん」(46名)となりました。つるの剛士さんは、過去2回の育児休業を取得した愛妻家として知られています。女性は家庭人と聞いたら“イクメン”をイメージする傾向にあるようです。

さらに、「趣味人(趣味や趣味仲間を大事にする人)」だと思ふ有名人を聞いたところ、1位は「所ジョージ」さん(190名)、2位は「ヒロミさん」(58名)、3位は同数で「タモリさん」と「哀川翔さん」(ともに34名)となりました。男性回答も女性回答も1位は「所ジョージさん」(男性114名、女性76名)となりました。所ジョージさんのような趣味の楽しみ方を理想としている人は、男女問わずに多いのではないのでしょうか。

◆「仕事人(仕事に誠実できっちり仕事をこなす人)」だと思ふ有名人
[自由回答] ※全体の上位10位まで、男女別の上位3位までを抜粋

全体(n=1200)			男性(n=600)		
順位	回答	人数	順位	回答	人数
1位	明石家さんま	54	1位	イチロー	35
2位	天海祐希	45	2位	明石家さんま	23
3位	イチロー	37	3位	タモリ	13
4位	タモリ	25			
5位	坂上忍	22			
6位	有吉弘行	17			
7位	櫻井翔	15			
8位	松本人志	14			
9位	マツコ・デラックス 堺雅人 / 中居正広	各13			

女性(n=600)		
順位	回答	人数
1位	天海祐希	37
2位	明石家さんま	31
3位	坂上忍 / 櫻井翔	各13

◆「家庭人(家庭を大事にしている人)」だと思ふ有名人 [自由回答]
※全体の上位10位まで、男女別の上位3位までを抜粋

全体(n=1200)			男性(n=600)		
順位	回答	人数	順位	回答	人数
1位	つるの剛士	63	1位	ヒロミ	20
2位	ヒロミ	39	2位	つるの剛士	17
3位	北斗晶	32	3位	北斗晶	13
4位	藤本敏史	22			
5位	佐々木健介	21			
6位	木下優樹菜	19			
7位	杉浦太陽	16			
8位	DAIGO	15			
9位	堺雅人	13			
10位	佐藤隆太 / 藤井隆 市川海老蔵	各12			

女性(n=600)		
順位	回答	人数
1位	つるの剛士	46
2位	ヒロミ	19
	北斗晶	19

◆「趣味人(趣味や趣味仲間を大事にする人)」だと思ふ有名人
[自由回答] ※全体の上位10位まで、男女別の上位3位までを抜粋

全体(n=1200)			男性(n=600)		
順位	回答	人数	順位	回答	人数
1位	所ジョージ	190	1位	所ジョージ	114
2位	ヒロミ	58	2位	ヒロミ	27
3位	タモリ	34	3位	タモリ / 哀川翔	各18
	哀川翔	34			
5位	大野智	24			
6位	明石家さんま	18			
7位	片岡鶴太郎	12			
8位	松本人志	9			
9位	小栗旬 / 木梨憲武 坂上忍 / 徳井義実 有吉弘行	各7			

女性(n=600)		
順位	回答	人数
1位	所ジョージ	76
2位	ヒロミ	31
3位	大野智	19

【働く若者のライフプラン】

- ◆若者がイメージする“幸せな生活”「好きな仕事で安定収入」、「仕事の成功よりもプライベートの交流充実」
- ◆働く若者の3人に1人は「結婚はしたいが、難しいかも」と実感、その理由は「収入額への不満」から？
- ◆将来叶えたい夢や目標「出産・子育て」56%、「マイホーム購入」63%、「ゆとりの老後」93%、「親孝行」88%
- ◆「結婚前に沢山恋愛したい」はもう時代遅れ「恋愛せずに結婚したい」「逃げ恥」タイプな価値観も？

結婚や出産、マイホームの購入といった、人生の節目となる出来事をライフイベントと言いますが、ライフイベントにはまとまったお金が必要な場面もたくさん出てきます。漠然とした将来の不安を払拭し、計画的に幸せな生活を目指していくためには、将来の夢や希望、理想の暮らしをイメージして、自分なりのライフプラン(生涯生活設計)を描いてみるのが有効です。そこで、まずは、働く若者がイメージする幸せな生活像を探るべく、質問を行いました。

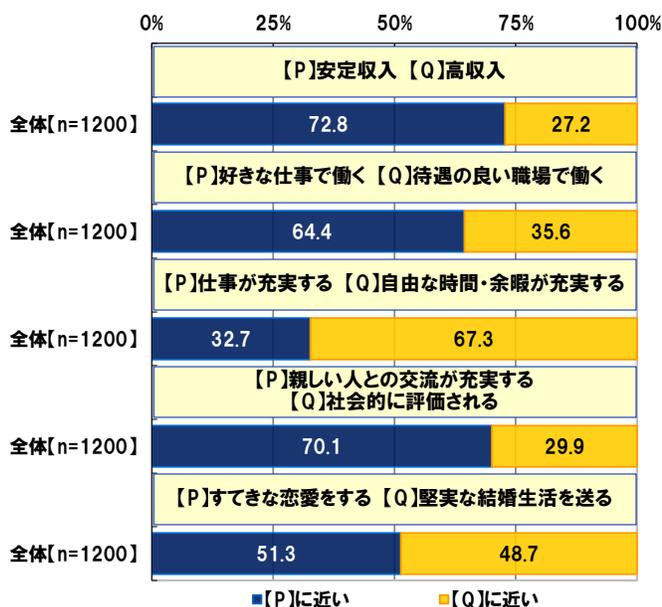
全回答者(1,200名)に、幸せな生活を想像したとき、思い浮かぶイメージは「【P】安定収入」と「【Q】高収入」のどちらにあてはまるか聞いたところ、「【P】に近い」が72.8%で多数派となりました。また、「【P】好きな仕事で働く」と「【Q】待遇の良い職場で働く」では、「【P】に近い」が64.4%で多数派となりました。高収入を得なくとも安定した収入が得られれば幸せだと考え、待遇の良さよりも仕事内容を優先したい人が多いようです。

続いて、「【P】仕事充実する」と「【Q】自由な時間・余暇が充実する」について聞いたところ、「【Q】に近い」が67.3%で多数派となりました。また、「【P】親しい人との交流が充実する」と「【Q】社会的に評価される」では、「【P】に近い」が70.1%で多数派となりました。仕事よりもプライベートが充実するほうが幸せだ、仕事で成功するなどして社会的に評価されるよりも親しい人との交流が充実する人生のほうが幸せだ、と感じる人が多いようです。

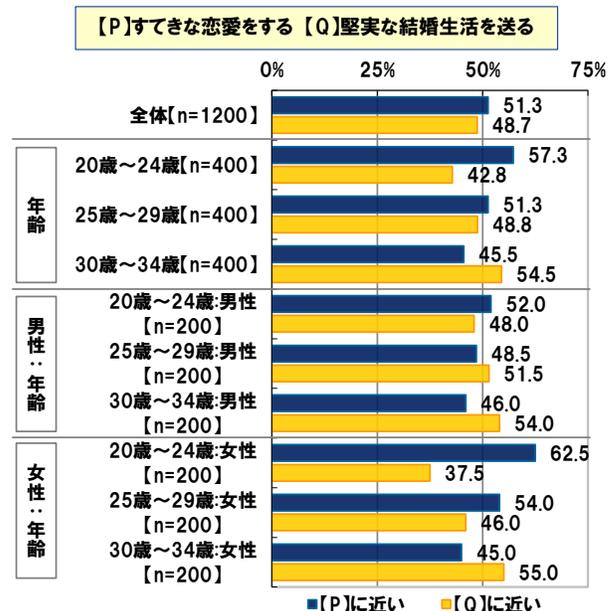
さらに、「【P】すてきな恋愛をする」と「【Q】堅実な結婚生活を送る」では、「【P】に近い」が51.3%、「【Q】に近い」が48.7%で、拮抗する結果となりました。

「【P】すてきな恋愛をする」と「【Q】堅実な結婚生活を送る」について、年齢別にみると、20歳～24歳では、「【P】に近い」が57.3%でやや優勢に、30～34歳では「【Q】に近い」が54.5%でやや優勢になりました。20代の前半では、堅実な結婚よりもすてきな恋愛をしたいと思う人が多いようで、この割合は20歳～24歳の女性(62.5%)で特に高くなりました。

◆幸せな生活を想像したとき、思い浮かぶイメージは、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答]



◆幸せな生活を想像したとき、思い浮かぶイメージは、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [単一回答]



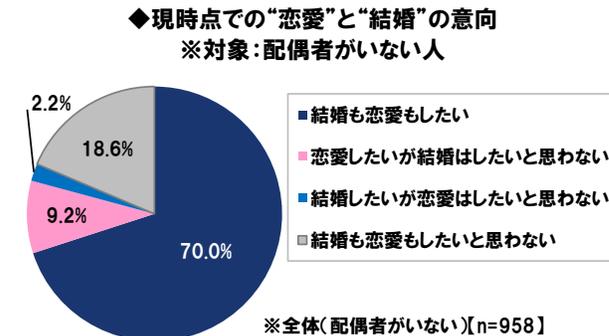
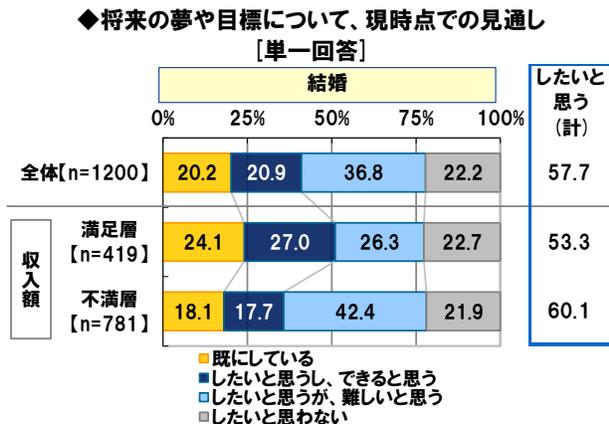
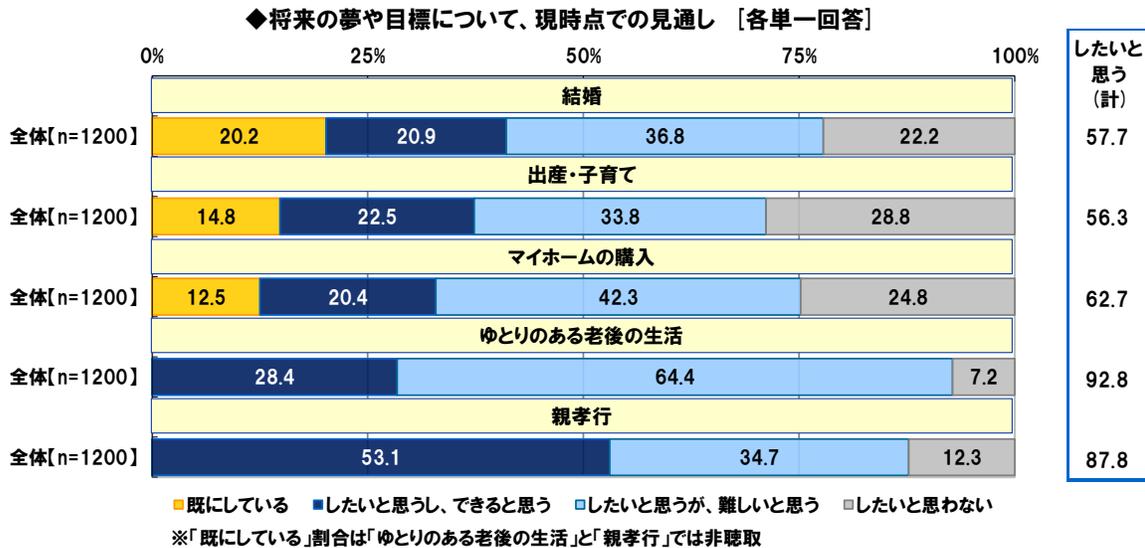
では、様々な将来の夢や目標について、働く若者は現時点でどのような見通しを立てているのでしょうか。

まず、「結婚」について、現時点の見通しを確認すると、全回答者(1,200名)のうち、「既になっている」が20.2%、「したいと思うし、できると思う」が20.9%、「したいと思うが、難しいと思う」が36.8%、「したいと思わない」が22.2%となりました。働く若者の3人に1人は、“結婚したいが実現は難しそうだ”と、暗い見通しを持っていることがわかりました。

そのほかの将来の夢や目標について、「したいと思う(計)」「したいと思うし、できると思う」+「したいと思うが、難しいと思う」の合計の割合をみると、「出産・子育て」は56.3%、「マイホームの購入」は62.7%、「ゆとりのある老後の生活」は92.8%、「親孝行」は87.8%となりました。働く若者は将来の夢や目標として、出産・子育てやマイホーム購入、ゆとりのある老後生活のほか、親孝行を掲げている人も少なくないようです。

収入額の満足層と不満層にわけてみると、「結婚」について、「したいと思うが、難しいと思う」は不満層では42.4%となり、収入額の満足層(26.3%)に比べて高くなりました。結婚の実現見通しには、経済状況が多分に影響を与えているのではないのでしょうか。

また、全回答者のうちの配偶者がいない人(958名)の、現時点での“恋愛”と“結婚”の意向について確認すると、「結婚も恋愛もしたい」は70.0%、「恋愛したいが結婚はしたいと思わない」は9.2%となりました。恋愛も結婚もしたい人が多く、“若いうちは結婚せずに、恋愛を楽しんでいたい”と考えている人は、若者世代にはあまり多くないようです。また、「結婚したいが恋愛はしたいと思わない」との意見も2.2%と僅かながらみられました。恋愛はせずに結婚したいという、“逃げ恥”の主人公カップルのような価値観を持っている人も、僅かながらいるようです。



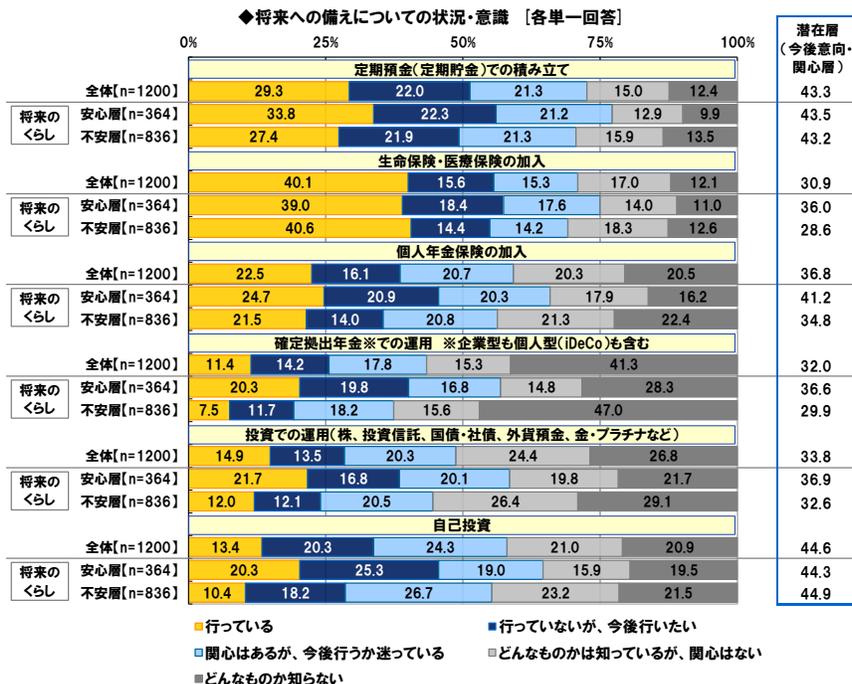
【働く若者のくらしとお金、マネープラン】

- ◆働く若者の3割は手堅く「定期預金の積み立て」を利用、「生命保険・医療保険」は4割が加入
将来不安の少ない人ほど「確定拠出年金」や「投資」、「自己投資」を実践中
- ◆働く若者の預貯金額のリアル 独身は80万円、夫婦2人は200万円、子育て世代は100万円
- ◆資産運用実践者の拠出額 確定拠出年金の拠出額は年平均14万円、投資の元手は年平均99万円拠出

年金や医療などの社会保障制度において、“産まれた世代ごとに受益と負担が大きく異なり、若年世代ほど不公平である”という世代間格差が大きな問題となっています。社会全体で、いかに若年世代の負担を減らすかを考えなくてはならないと同時に、個人としても、しっかりと備えておくことが大切です。そこで、働く若者のマネープランの状況について、確認を行いました。

将来への備えとして「行っている」ものをみると、全回答者(1,200名)のうち、「定期預金(定期貯金)での積み立て」を「行っている」は29.3%、「生命保険・医療保険の加入」は40.1%、「個人年金保険の加入」は22.5%、「確定拠出年金※での運用 ※企業型も個人型(iDeCo)も含む」(※)は11.4%、「投資での運用(株、投資信託、国債・社債、外貨預金、金・プラチナなど)」は14.9%、「自己投資」は13.4%となりました。現状、定期預金や各種保険といった手堅い方法で将来に備えている人が多いようです。また、将来への備えについて、「潜在層」の割合(「行っていないが、今後行いたい」+「関心はあるが、今後行か迷っている」の合計、以下同様)に注目すると、「定期預金での積み立て」は43.3%、「生命保険・医療保険の加入」は30.9%、「個人年金保険の加入」は36.8%、「確定拠出年金での運用」は32.0%、「投資での運用」は33.8%、「自己投資」は44.6%となりました。今後は、預金や保険以外にも、確定拠出年金や投資などの手段で将来に備えようと考えている人も少なくないようです。

将来のくらしの安心層と不安層に分けてみると、安心層は「確定拠出年金での運用」を「行っている」が20.3%(不安層では7.5%)、「投資での運用」では21.7%(不安層では12.0%)、「自己投資」では20.3%(不安層では10.4%)となり、それぞれ不安層よりも10ポイント前後高くなりました。確定拠出年金や投資が将来不安の緩和にも役立っているのではないのでしょうか。また、成長のために自分に投資することも、将来不安の緩和に役立つ可能性がうかがえました。



(※)確定拠出年金は、加入者自身が資産を運用し、将来受け取れる年金額が運用結果次第で決まります。確定拠出年金を実施している企業の従業員が加入できる企業型と、個人型(愛称:iDeCo)があります。

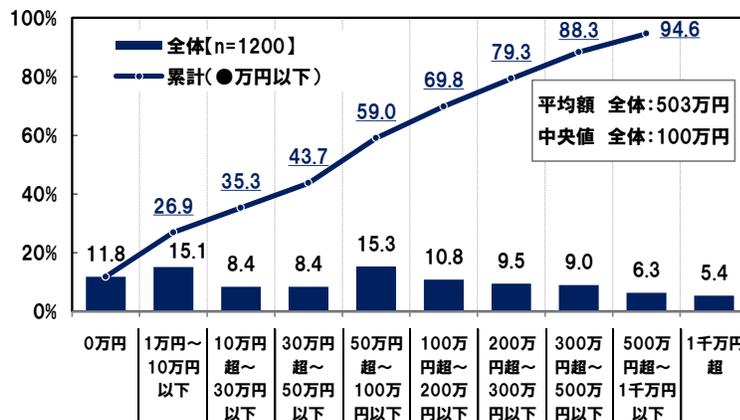
では、働く若者は、どの程度の預貯金を保有しているのでしょうか。また、資産運用を始めている人は、どのくらいの資金を投じているのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、現在の預貯金額(普通預金・通常貯金を含み、外貨預金は除く)を聞いたところ、「100万円以下」が59.0%と過半数となった一方で、「500万円超～1千万円以下」(6.3%)や「1千万円超」(5.4%)といった高額な預貯金が出来ている人の回答もみられ、預貯金の平均額は503万円、中央値は100万円となりました。

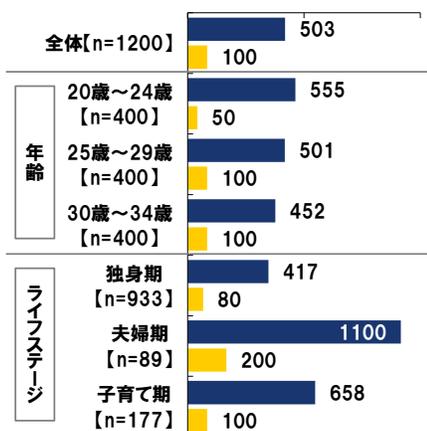
ライフステージ別にみると、預貯金の平均額は独身期 417万円→夫婦期 1,100万円→子育て期 658万円(中央値は独身期 80万円→夫婦期 200万円→子育て期 100万円)となりました。お金のかかる子育て期に備えて、独身期～夫婦期の間に預貯金の積み立てに励んだ人が多いのではないのでしょうか。

また、確定拠出年金での運用を行っている人(137名)に、最近1年間で拠出した額を聞いたところ、「1万円～6万円以下」30.7%や「6万円超～12万円以下」29.2%、「12万円超～24万円以下」17.5%に多くの回答が集まり、平均額は13.6万円となりました。今年からiDeCo(個人型確定拠出年金)の加入対象者が拡張されたことで注目が集まった確定拠出年金ですが、既に運用を行っている人は、ひと月あたり1万円前後の拠出額で運用している人が多いようです。

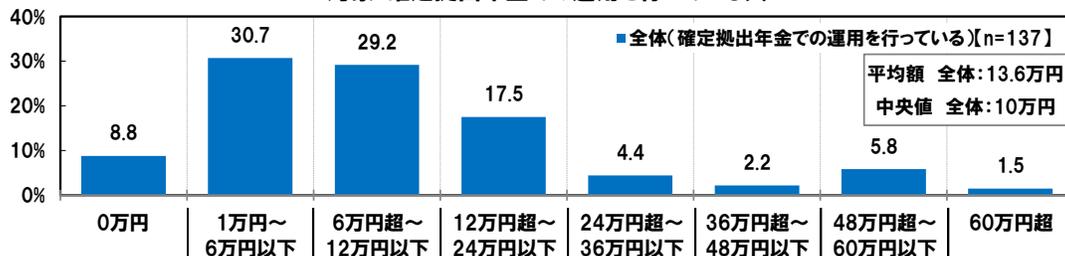
◆現在の預貯金額(普通預金・通常貯金を含み、外貨預金は除く)
[数値入力回答:合計で__万円くらい]



■現在の平均預貯金額 ■中央値
0万円 600万円 1,200万円

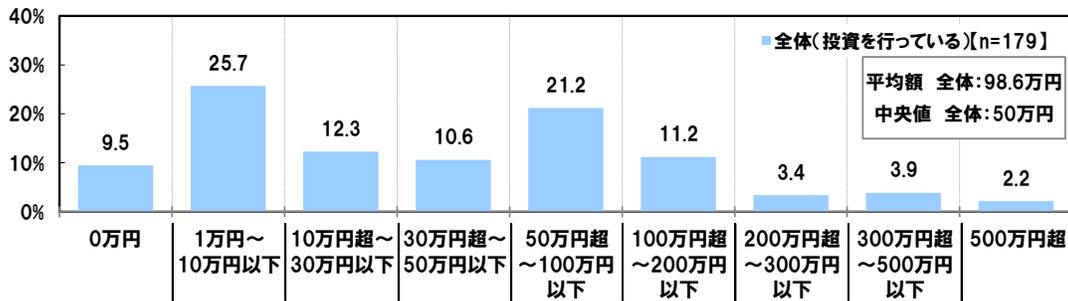


◆最近1年間で確定拠出年金に拠出した額 [数値入力回答:最近1年間で__万円くらい]
※対象:確定拠出年金での運用を行っている人



さらに、投資を行っている人(179名)に、最近1年間で投資した原資額を聞いたところ、「1万円～10万円以下」25.7%や「50万円超～100万円以下」21.2%に多くの回答が集まり、平均額は98.6万円、中央値は50万円となりました。10万円以下などの少額から投資を始めている人も少なくないようです。現行のNISAでは、年間最大120万円までの投資額を5年間、非課税で運用できますので、働きながら投資をしている若者の多くはNISAを活用しているのかもしれませんが。

◆最近1年間で投資した原資額 [数値入力回答:最近1年間で__万円くらい]
 ※対象:投資を行っている人



◆意外と知らない？お金の知識

「生命保険料控除」の認知率 47%、「住宅ローン控除」はマイホーム保有者でも認知率 57%

◆所得控除を加味すればよい運用？保険料控除を知っている人の 3 割強が「個人年金保険」に加入

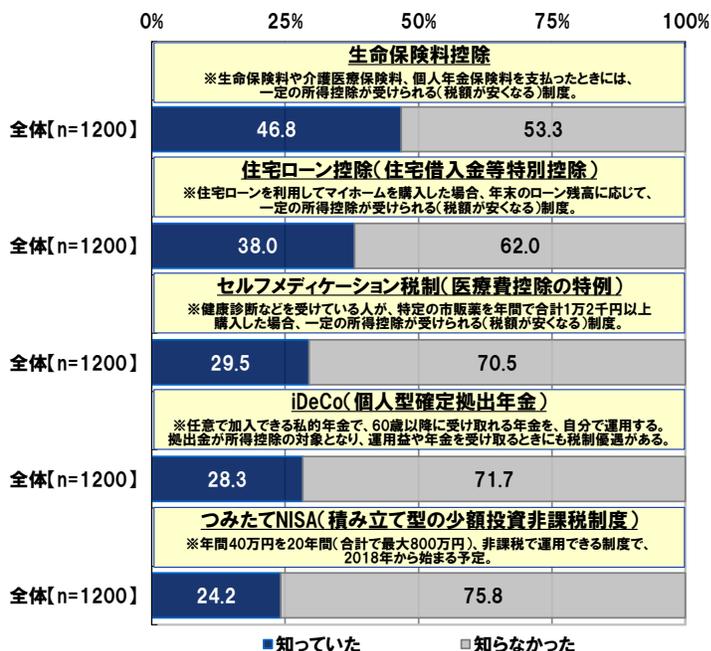
◆「つみたて NISA」を知った人の 4 割強が投資デビューを検討中

収入を得ることで、所得税や住民税など所得に応じた税金を納めることとなりますが、税金に関連する制度は、知っておくことで得するものも多くあります。働く若者は、これらのお金に関する制度について、どの程度の知識を持っているのでしょうか。

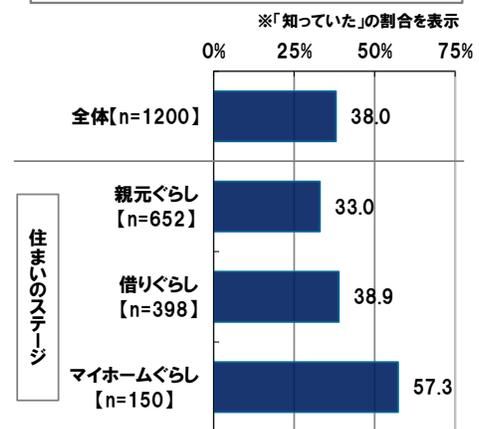
全回答者(1,200 名)に、様々なお金に関する制度を提示し、知っていたか聞いたところ、「生命保険料控除」について「知っていた」割合(以下、認知率)は 46.8%、「知らなかった」が 53.3%となりました。給与所得者の多くは、年末調整の書類を記入する際に生命保険料控除の記入欄を目にしているかと思いますが、この制度を知らない人が過半数となりました。また、「住宅ローン控除」の認知率は 38.0%、マイホーム暮らしの人に限ってみても 57.3%となりました。住宅ローン控除を受けるためには、購入した住宅に入居した翌年に確定申告を行う必要がありますが、制度を知らないことで控除の申請をせず、損をしている人も少なくないのかもしれませんが、また、「セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)」の認知率は 29.5%となりました。この特例は、健康診断などを受けている人が、「スイッチ OTC 医薬品」を年間で合計 1 万 2 千円以上購入した場合に所得控除が受けられるという、今年から始まった特例ですが、まだまだ認知されていないようです。

そのほか、「iDeCo(個人型確定拠出年金)」の認知率は 28.3%、「つみたて NISA(積み立て型の少額投資非課税制度)」の認知率は 24.2%となりました。いずれも将来の資産形成に役立ち、税制面で優遇のある制度ですが、あまり知られていない様子が見られました。

◆お金に関する以下の制度について、知っていたか [各単一回答]

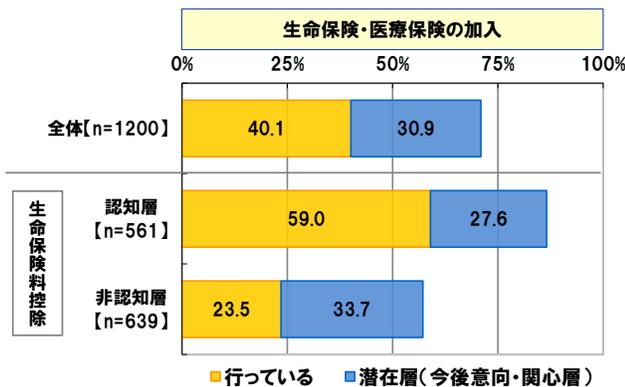


■住宅ローン控除の認知率

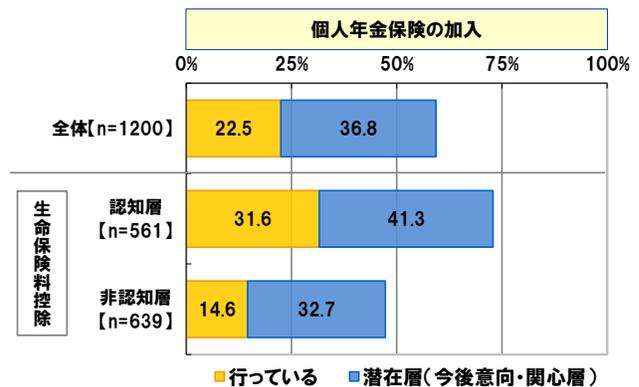


お金に関する制度の認知状況別に、将来への備え状況についてみると、生命保険料控除の認知層は「生命保険・医療保険の加入」を「行っている」割合が59.0%（非認知層は23.5%）、「個人年金保険の加入」では31.6%（非認知層は14.6%）となり、それぞれ非認知層の2倍以上の加入率となりました。生命保険料控除を知っている人は、“控除を加味すると、良い将来への備えになる”と総合的に判断し、これらの保険の加入を決定したのではないのでしょうか。また、iDeCoの認知層は「確定拠出年金での運用」を「行っている」割合が28.2%（非認知層は4.8%）、「潜在層」の割合が48.2%（非認知層は25.4%）となりました。iDeCoのことを知り、確定拠出年金での運用を始めたり、これから始めることを検討し始めたりしている人が増えているようです。さらに、来年からスタートする予定のつみたてNISAの認知層は「投資での運用」の「潜在層」の割合が42.1%（非認知層は31.2%）となりました。つみたてNISAを活用して投資デビューしようと考えている人も増えているのではないのでしょうか。

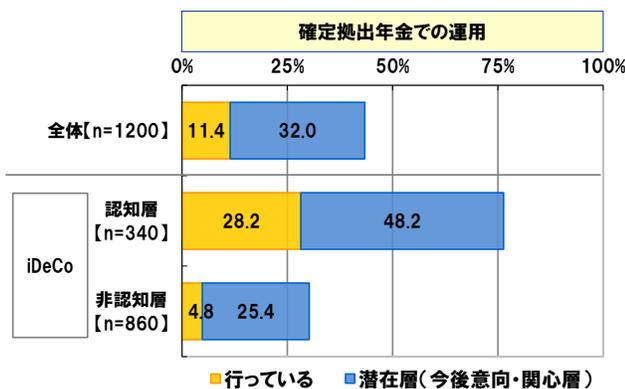
◆将来への備えについての状況・意識 [単一回答]



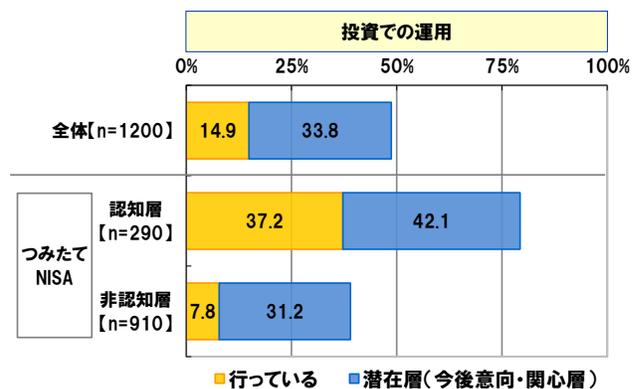
◆将来への備えについての状況・意識 [単一回答]



◆将来への備えについての状況・意識 [単一回答]



◆将来への備えについての状況・意識 [単一回答]



- ◆「給与明細を毎月チェック」は6割強が実践も、「家計簿で収支のバランスチェック」は2割弱
- ◆貯蓄の秘訣？ 預貯金が多い人は「貯蓄の目標設定」や「カード明細チェック」、「ネット銀行の活用」を実践
- ◆働く若者は「高級ランチ」や「サッカー・プロ野球観戦」などにプチ贅沢 贅沢消費の中央値は1.5万円

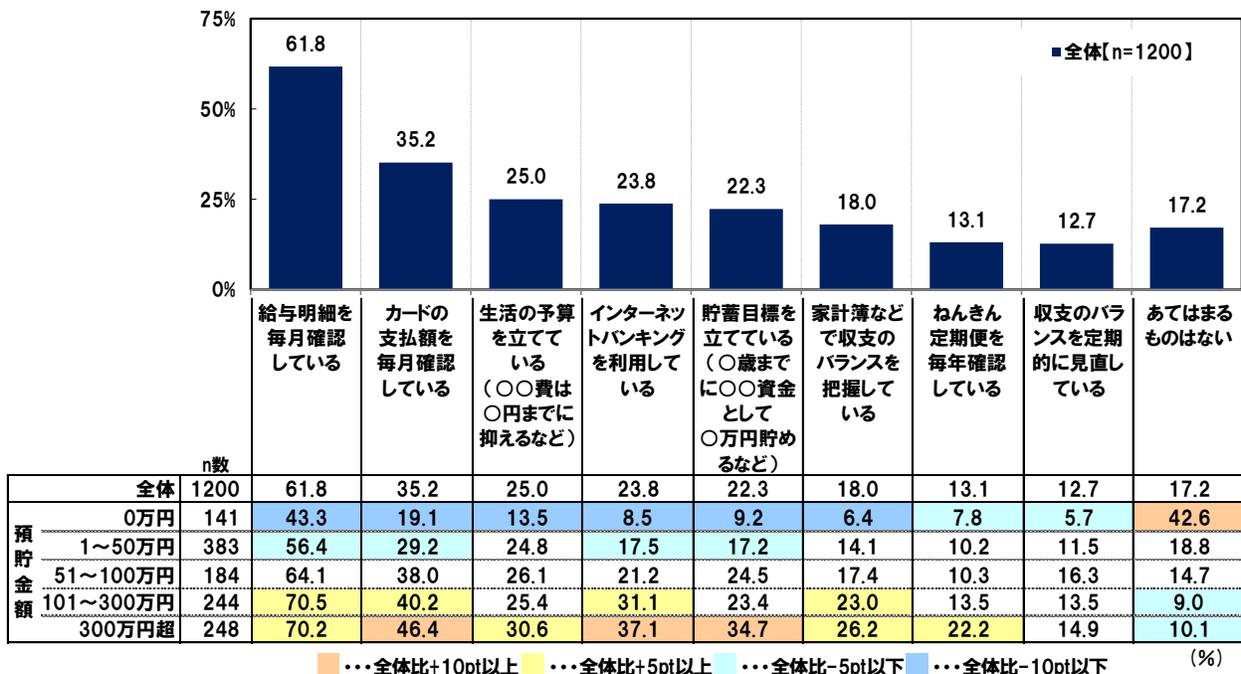
働く若者は、お金の管理をしっかり行っているのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、若手社会人におすすめのお金の管理習慣(※)を提示し、行っているものを聞いたところ、「給与明細を毎月確認している」が最も高く61.8%となり、次いで、「カードの支払額を毎月確認している」が35.2%、「生活の予算を立てている(〇〇費は〇円までに抑えるなど)」が25.0%、「インターネットバンキングを利用している」が23.8%、「貯蓄目標を立てている(〇歳までに〇〇資金として〇万円貯めるなど)」が22.3%で続きました。給与明細を確認する習慣は過半数が身につけていますが、生活費の予算管理や目標を立てた貯蓄を行っている人はあまり多くないようです。以下は1割台で、「家計簿などで収支のバランスを把握している」18.0%、「ねんきん定期便を毎年確認している」13.1%、「収支のバランスを定期的に見直している」12.7%となっており、これらのお金の管理が全て習慣化していないとする「あてはまるものはない」が17.2%となりました。

預貯金額別にみると、預貯金額が少ない人ほどこれらの習慣が身につけていない傾向がみられ、預貯金額が0万円の層では「あてはまるものはない」が42.6%となりました。やはり、お金の管理習慣がないと資産を形成しづらいようです。また、預貯金額が300万円超の層は特に、「貯蓄目標を立てている」34.7%や「カードの支払額を毎月確認している」46.4%、「インターネットバンキングを利用している」37.1%が習慣化している割合がそのほかの層よりも高くなりました。

※参考：日本FP協会 編集・発行『若手社会人のマネー&ライフプランお役立ちハンドブック!』
https://www.jafp.or.jp/personal_finance/fresh/young_handbook/

◆お金の管理の習慣として、行っているもの [複数回答可]



お金をしっかり管理できるようになれば、たまの贅沢は、くらしの潤いになり得ます。働く若者は、最近どのような消費に財布の紐が緩んだのでしょうか。

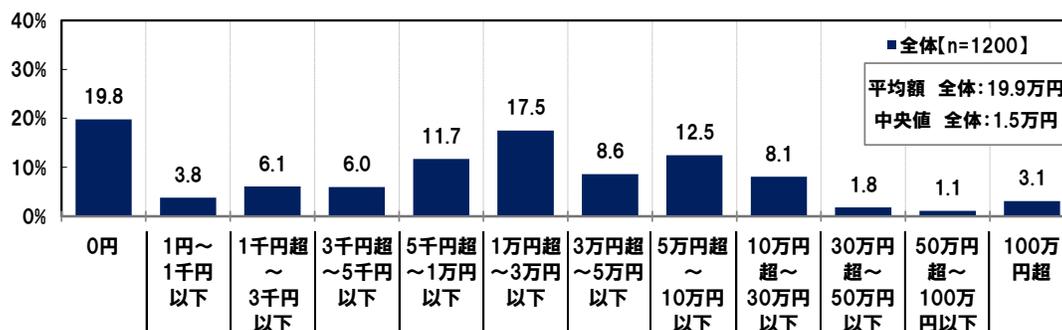
全回答者(1,200名)に、最近、最も奮発したモノ・コトについて聞いたところ、「高級ソフトクリーム/300円」や「高いラーメン/1,200円」、「デパートで高級ランチ/2,000円」などのリッチな食べ物・食事や、「サッカー観戦/4,000円」や「アーティストのライブ/5,000円」、「プロ野球の観戦/8,000円」といったライブイベント参加、「腕時計/2万円」や「ブランドバッグ/3万円」、「財布/6万円」といったファッション・ファッション小物、「マッサージ/3,000円」、「温泉旅行/5万円」といったリフレッシュ・癒やしなど、多種多様な回答があがりました。また、「結婚式/300万円」や「家/7,000万円」など、ライブイベントに関連する高額出費をしたという回答も見受けられました。

最近、最も奮発したモノ・コトに使った金額に注目すると、全回答者(1,200名)のうち、最近奮発はしていないとする「0円」は19.8%となったほか、「1万円超～3万円以下」17.5%に回答が集まり、中央値は1.5万円となりました。数千円～数万円程度のプチ贅沢を楽しんでいる人が多いようです。

◆最近、最も奮発したモノ・コト [自由回答:奮発したのは___で、かけたお金は___円くらい] ※一部回答を抜粋

分類	回答内容(回答者属性)
リッチな食べ物・食事	高級ソフトクリーム/300円(30歳～34歳:男性)、高いラーメン/1,200円(30歳～34歳:男性) ケーキバイキング/2,000円(25歳～29歳:女性)、デパートで高級ランチ/2,000円(25歳～29歳:女性)
ライブイベント参加	サッカー観戦/4,000円(20歳～24歳:男性)、アーティストのライブ/5,000円(25歳～29歳:男性) プロ野球の観戦/8,000円(30歳～34歳:男性)、スポーツ観戦/1万円(25歳～29歳:男性)
ファッション・ファッション小物	服/2万円(20歳～24歳:女性)、腕時計/2万円(25歳～29歳:男性) ブランドバッグ/3万円(25歳～29歳:女性)、財布/6万円(30歳～34歳:女性)
リフレッシュ・癒やし	マッサージ/3,000円(30歳～34歳:男性)、エアートド/8,000円(30歳～34歳:女性) 温泉旅行/3万円(25歳～29歳:女性)、温泉旅行/5万円(30歳～34歳:男性)
ゲーム	UFOキャッチャー/1,000円(30歳～34歳:女性)、ゲームソフトの購入/5,000円(30歳～34歳:男性) ゲームの課金/1万円(25歳～29歳:男性)、ゲーム機/3万円(20歳～24歳:男性)
ライブイベント・高額出費	引っ越し代諸々/40万円(20歳～24歳:男性)、車/50万円(20歳～24歳:男性) 結婚式/300万円(25歳～29歳:女性)、家/7,000万円(25歳～29歳:男性)
交流	飲み会/7,000円(30歳～34歳:女性)、母親の誕生日プレゼント/1.7万円(25歳～29歳:女性) 家族のお出掛け/2万円(20歳～24歳:女性)
情報家電	タブレットPC/3万円(30歳～34歳:男性)、スマートフォンの新調/6.3万円(25歳～29歳:男性) ノートパソコン/10万円(20歳～24歳:男性)
美容・美容家電	美顔器/2.5万円(30歳～34歳:女性)、光脱毛器/7万円(25歳～29歳:女性) 全身脱毛/38万円(20歳～24歳:女性)
その他趣味	同じ映画を複数回/4,500円(25歳～29歳:女性)、プラモデル/5,000円(30歳～34歳:男性) 好きなアーティストのライブグッズ/1万円(30歳～34歳:女性)、コミケ/5万円(25歳～29歳:男性) 車のパーツを買った/7万円(30歳～34歳:男性)、趣味の楽器購入/40万円(20歳～24歳:男性)

◆最近、最も奮発したモノ・コトに使った金額 [数値入力回答:かけたお金は___円くらい]



- ◆いづれ割り勘も電子化？ 5人に1人が「割り勘・送金アプリを利用したい」
- ◆お金の管理はITやFPに頼りたい？「FPに今後相談したい」は2割半、
家計簿を自動作成する「PFMサービス」の利用意向は2割弱、AIが資産配分を提案する「ロボ・アド」は2割
- ◆子育て期の男性は2割半が家計簿を自動作成する「PFMサービス」の利用経験者

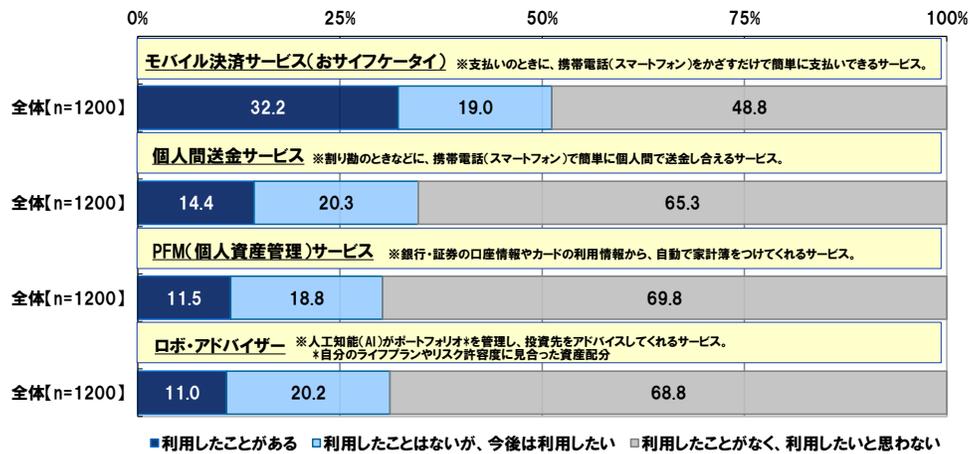
近年、IT技術を使った新たな金融サービス「フィンテック(FinTech)」が、様々な場面で話題になっています。働く若者は、フィンテックに関連するサービスを、どの程度利用しているのでしょうか。

まず、全回答者(1,200名)に、「モバイル決済サービス(おサイフケータイ)」の利用状況と利用意向について聞いたところ、「利用したことがある」が32.2%、「利用したことはないが、今後は利用したい」が19.0%となりました。働く若者の3人に1人は携帯電話によるキャッシュレス決済機能を利用したことがあるようです。また、最近ではQRコード決済アプリや割り勘アプリなどで、銀行を介さず簡単に個人間で送金し合えるサービスも登場してきていますが、この「個人間送金サービス」について聞いたところ、「利用したことがある」が14.4%、「利用したことはないが、今後は利用したい」が20.3%となりました。モバイル決済サービスよりも利用経験がある割合は低いものの、5人に1人は今後使ってみようと考えているようです。

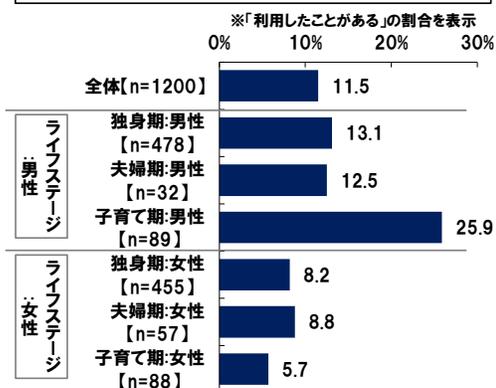
また、自動で家計簿をつけてくれる「PFM(個人資産管理)サービス」では「利用したことがある」が11.5%、「利用したことはないが、今後は利用したい」が18.8%となり、AIが適切なポートフォリオを作成してくれる「ロボ・アドバイザー」では「利用したことがある」が11.0%、「利用したことはないが、今後は利用したい」が20.2%となりました。資産管理や資産形成に役立つサービスについても、今後使ってみようと考えている人は少なくないようです。

男女・ライフステージ別に利用経験率をみると、子育て期の男性は「PFMサービス」は25.9%、「ロボ・アドバイザー」は23.6%となり、そのほかの層よりも高くなりました。

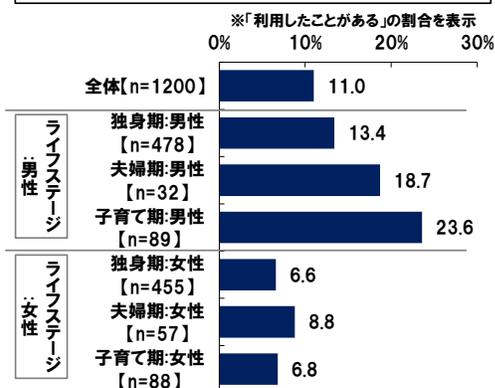
◆フィンテック関連サービスの利用状況と利用意向 [各単一回答]



■PFM(個人資産管理)サービスの利用経験率



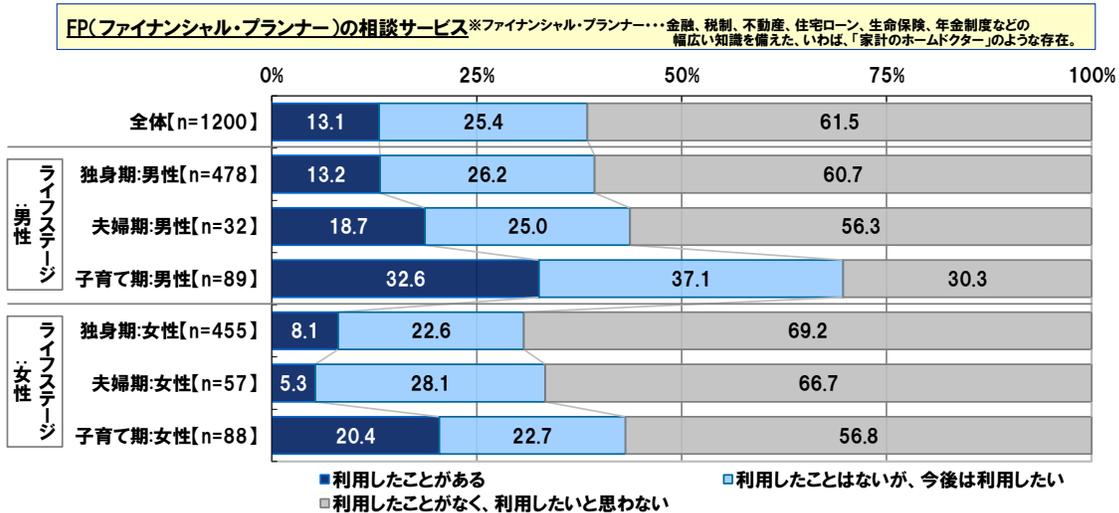
■ロボ・アドバイザーの利用経験率



「ファイナンシャル・プランナーの相談サービス」についても同様に、利用状況と利用意向を聞いたところ、「利用したことがある」が13.1%、「利用したことはないが、今後は利用したい」が25.4%となりました。

男女・ライフステージ別にみると、子育て期の男性では、「利用したことはないが、今後は利用したい」が37.1%となり、そのほかの層よりも高くなりました。子育て期のパパには、家計やマネープランについて、ファイナンシャル・プランナーに相談してみたいと思っている人が多いようです。

◆ファイナンシャル・プランナーの相談サービスの利用状況と利用意向 [単一回答]



《調査概要》

- ◆調査タイトル : 働く若者のくらしとお金に関する調査 2017
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする
全国の 20 歳～34 歳の就業者
- ◆調査期間 : 2017 年 9 月 1 日～9 月 10 日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,200 件 * 有効回答から、男女・年齢(5 歳区切り)が均等になるように抽出
(内訳)20 歳～24 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳の男女 各 200 名
- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

■■法人概要■■

- 協会名: 特定非営利活動法人(NPO 法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
 創立: 1987 年 11 月 19 日
 ※2001 年 7 月 2 日に特定非営利活動法人(NPO 法人)として、スタート
- 理事長: 白根 壽晴
- 所在地: <本部事務所>東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 5F
 <大阪事務所>大阪府大阪市北区堂島浜 1-4-19 マニユライフプレイス堂島 5F
- 事業目的: 広く一般市民に向けてファイナンシャル・プランニングの啓発と普及を図る。
 ファイナンシャル・プランニングの担い手(専門家)であるファイナンシャル・プランナーを
 養成・認証する。
- 事業内容: ・ファイナンシャル・プランニングに関する知識の啓発と普及
 ・ファイナンシャル・プランニングに関する調査、研究及び情報の提供
 ・ファイナンシャル・プランニングに関する書籍の発行
 ・国内外のファイナンシャル・プランニング関係機関との交流
 ・ファイナンシャル・プランナーの教育と資格認定試験の実施
- URL: <http://www.jafp.or.jp/>

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「日本 FP 協会 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先

担 当	日本ファイナンシャル・プランナーズ協会	TEL	FAX	E-mail
	広報部広報課 金田・田和	03-5403-9739	03-5403-9795	info@jafp.or.jp